

- 1 派遣期日 令和4年11月23日(水)
- 2 派遣先 学校名 大洗町立南小学校・南中学校
所在地 茨城県東茨城郡大洗町大貫町1212番地の14
<https://www.minami-el.oarai.ed.jp/>
- 3 研修内容
令和4年度 大洗町立南小学校・中学校 第17回教育実践研究発表会
研究主題

「対話」から未来を拓く
－「対話」を深める学びのデザインを通して－

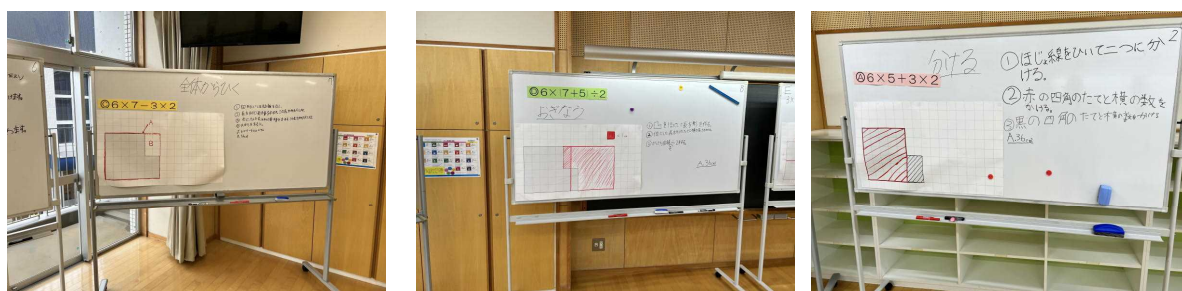
(1) 研究主題について【大洗町立南小・中学校研究紀要より】

研究のステージが平成31(令和元年)年度から第Ⅵステージ『「対話」から未来を拓く』へと移った。様々な人々と主体的に関わりながら相互理解を深め、協働して課題を解決したり、新たな価値を生み出したりする力は、これからの時代を生き抜く子供たちに求められる能力であると考えた。このような未来を創り出す資質・能力を育てるために、第Ⅴステージで培った「3つの対話(課題・仲間・自分)」を生み出す学びをどのようにデザインしていくのかという視点、授業づくりや授業改善の中心に捉えて、学びをデザインした。場の工夫や単元計画の工夫など、3つの対話を深める学びのデザインを提案することができた。2年目の令和2年度は、コロナ禍のため、感染症対策を講じながら子供の協働的な学びを止めないようにICTを活用したり、学習の場をより工夫したりすることができた。3年目の令和3年度は、引き続き感染症対策を図りながら、中学校では教科教室型システム、小学校ではオープンスペースを活用し、様々な学習活動を展開することができた。また、児童生徒のICT機器の活用スキルも向上し、協働的な学びの際には、自分の考えと友達の考えを比較検討するために付箋やホワイトボードだけでなく、タブレットPCのJamboardなどを使い分けることができるようになってきている。本年度は、その3年目の流れを再構築し、実践していこうと考えた。

(2) 公開授業

今回、南小・中学校では7つの授業を公開しており、その中で児童が主体的に学ぶための指導の工夫として、特に算数科では、児童が考えを可視化・整理し、見通しをもって問題解決ができるよう、Yチャートやステップチャートなどを活用していた。今回参観した4学年の算数の授業では、複合図形の面積の求め方について自分の考えを整理する思考ツールとして、ステップチャートが活用されており、その結果、自分の考えの根拠を明らかにできたり、自分の考えを伝えるときに、話すことを順序立てることができたりすることができていた。ステップチャートという思考ツールの活用が児童が自分の考えを整理することや、相手に分かりやすく伝えることに役立っている。また、学び合いの時間には、ペアやグループ、または自由に教室内で様々な友達と考えを交流する時間を設定し、学び合いの際には友達の考えを聞いた後に感想を伝え合ったり、友達と自分の考えで同じところや違うところを探したりするなど、学び合いの視点も設定されていた。今回の授業では、ホワイトボードを活用し同じ考えの友達とグループになり、違う考えのグループと積極的な意見の交流がされていた。そのことにより、自分と友達の考えを比較し、その共通点や相違点を見つける活動を通して、多角的な見方や考え方に触れながら、既習の正方形や長方

形をもとにして考えれば複合図形の面積を求められることに気づけた児童が数多くいた。また、低学年の児童も自分の考えた6の段の作り方について、ホワイトボードを使って友達と考えと比較検討をしていた。この他者との「対話」積み重ねが、根拠をもって自分の考えを他者に伝える力が養われ、上の学年、さらには中学生になっても生かされている。南小・中学校では、ホワイトボードを一つの学び合いのツールとして活用しており、考えや理由、答えを導き出すための手順等をホワイトボードを使って「対話」を行っていた。グループでの比較検討、全体での比較検討それぞれで活用され、意見の可視化によって学び合いが深まっている。ICT機器の活用としては、タブレット端末を必要な場面において使っている印象であった。5年生の社会科の授業では、問いの提示や全体のまとめに活用されていた。特に最後のまとめをJamboardの一つのページに児童一人一人が記入していき、全体で共有していたのが印象的だった。



※10台以上のホワイトボードを活用して積極的な学び合いが行われていた。

(3) 分科会

様々な研究協議の進め方があるが、南小・中学校では、ワークショップ型の研究協議が採用されており、校内授業研究及び授業公開での分科会等でも行っている。実際に参加した算数・数学科の分科会においても、ワークショップ型で進めた。ワークシートにも工夫がされており、中央に授業者が目指す「学びのデザイン」が記載され、本時の手立ての有効であった部分や課題となる部分の解決策について積極的な意見交換が行われた。特に意見が多かったのは、思考ツールとホワイトボードの活用についてで、思考したことを他者に伝える活動を低学年から中学校まで繰り返し行っていくことで、児童の主体的な「対話」が自然に生まれているのではないかとということであった。課題については、児童の自力解決の時間を中心にするのか、グループごとの比較検討の時間を中心とするのか、全体での共有を中心とするのか、どこに焦点を当てるのかももう一度考える必要があるのではないかと話し合われた。また、今回算数科ではICT機器の活用がされなかったので、有効的な活用も視野に入れていくことも意見として出された。

4 感想

今回大洗町立南小・中学校の教育実践研究発表会に参加して、印象に残ったことは思考ツールの活用とホワイトボードを使った積極的な「対話」である。思考ツールを使うことで児童が自分の考えを整理し、どのように伝えれば相手に理解してもらえるのか考える手立てとなっていた。それを活用してお互いの考えを伝え合ったり、自身と相手の考えの比較検討を行ったりする活動を繰り返し行っていくことで、自分の考えを根拠を明確にして他者に伝えたり、文章に書いたりする「論理的思考力」を育まれていくのではないかと感じた。今回参加した南小・中学校の教育実践研究発表会で得られたヒントをもとに、児童の「論理的思考力」を育ていけるように、自己の授業改善と共に学校校内研修の活性化に努めていきたい。また、学びのハイブリッド化を目指して効果的なICTの活用場面を想起し、積極的な児童の学び合いを促す授業づくりに取り組んでいきたい。